一般演題(口演) | 内科・外科
2026年11月20日(金) 12:50 ~ 13:50 | 第6会場（1F 会議室103）
一般演題（口演） 13　切除不能・再発大腸癌に対する治療戦略 1
座長：平田 賢郎（慶應義塾大学病院　腫瘍センター）

[O13-8] TMBhigh進行・再発大腸癌に対するPembrolizmab治療成績

*横田 和子[1]、柴木 俊平[1]、坂本 純一[1]、小嶌 慶太[1]、田中 俊道[1]、横井 圭悟[1]、古城 憲[1]、三浦 啓壽[1]、山梨 高広[1]、佐藤 武郎[2]、内藤 剛[1] (1. 北里大学医学部下部消化管外科学、2. 北里大学医学部附属医学教育研究開発センター医療技術教育研究部門)

【背景】
KEYNOTE-158試験により、TMBhighを有する標準治療に不応または不耐の進行・再発固形癌に対しPembrolizmab療法の有効性が示され、大腸癌においても治療選択肢として挙げられている。
【目的】
　包括的がんゲノムプロファイリング検査（CGP検査）にてTMBhighと診断された進行・再発大腸癌におけるPembrolizmab治療成績を明らかにする。
【方法】
　2020年1月～2026年4月までの間に進行・再発大腸癌に対してCGP検査が行われ、TMBhighと診断され、Pembrolizmabが投与された4例について後方視的に検討した。
【結果】
　4例の内訳は、男性2例、女性2例、CGP検査時の年齢の中央値は64.5（55-66）歳、Performance Status（PS）0が2例、PS1が1例、PS2が1例、前治療として全例でOxaliplatinが投与されており、3例ではIrinotecanも投与されていた。TMBスコアの中央値は11.13（9.65-57.93）mut/Mb で、投与期間の中央値は4.2（1.4-11.7）ヶ月であった。Grade2以上の免疫関連有害事象は認めなかった。
　TMBスコアが57.93mut/Mbであった症例は、骨盤内を占める切除不能直腸癌に対して1次治療としてFOLFOX+Pmab療法を行っていたが、効果判定はStable Diseaseであった。CGP検査にてTMBhighを認め、Pembrolizmab療法を開始された。開始後5.3ヶ月目のCT検査にて著明に腫瘍は縮小し、治療を継続していたが、12.8ヶ月後のPET-CT検査にてFDG集積を認めず、Complete Response（CR）と判断し、本人の希望もあり投与中止した。投与開始から18.2ヶ月の時点でCRを維持している。
【結語】
　TMBhigh進行・再発大腸癌においても、Pembrolizmab療法が有効である可能性あるが、今後も症例の集積が必要である。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会